

令和5年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員について、令和5年5月から9月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 令和5年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は91,467人でした。これは、平成20年の調査開始以降2番目に多い搬送人員でした。また、昨年度同期間の救急搬送人員71,029人と比べると20,438人増となっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別等の内訳は次のとおりです。
 - 年齢区分別では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 初診時における傷病程度別にみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 発生場所別の救急搬送人員をみると、住居が最も多く、次いで道路、公衆（屋外）、仕事場①（道路工事現場、工場、作業所等）の順となっています。



【連絡先】 消防庁 救急企画室 救急連携係

担 当：小味課長補佐、門口係長、西川事務官

T E L：03-5253-7529

E-mail：kyukyukikakukyukyurenkei_atmark_soumu.go.jp

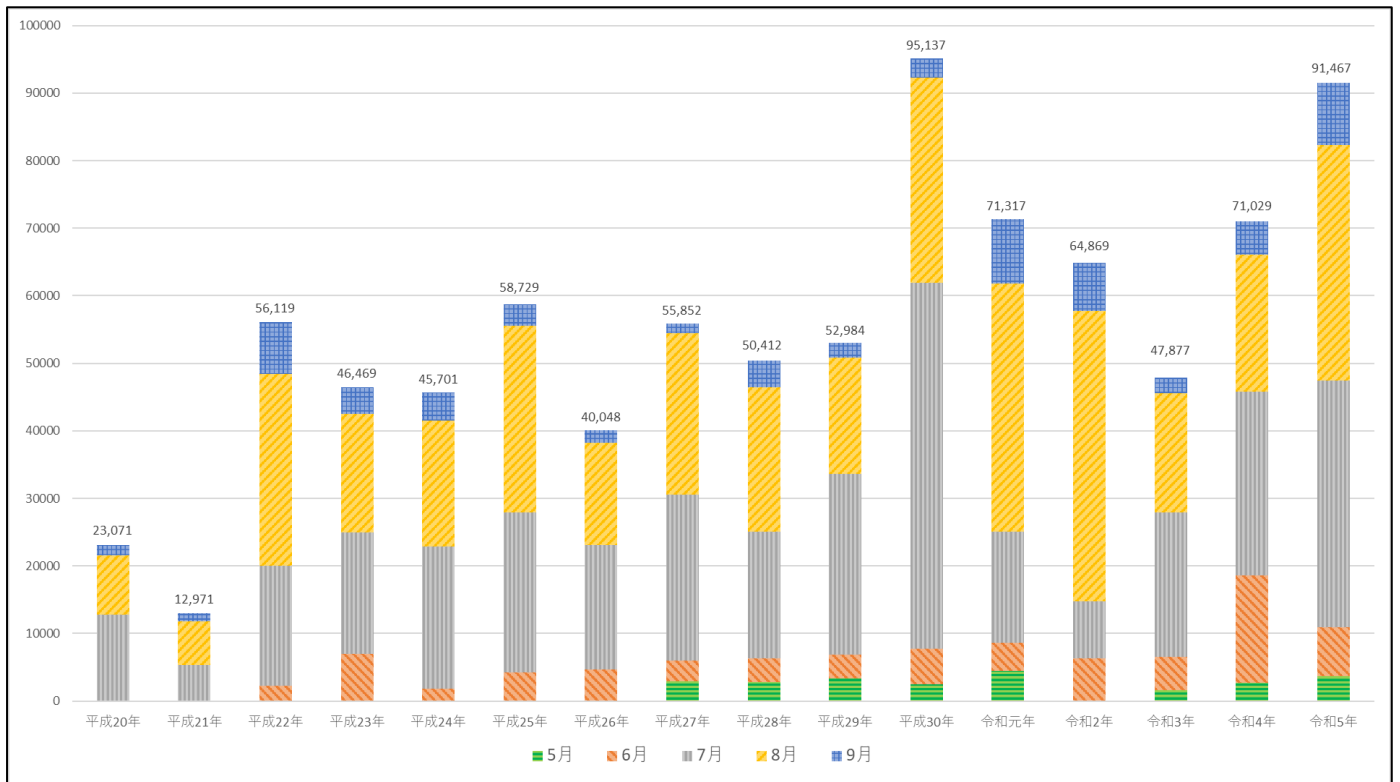
※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。
送信の際には、「@」に変更してください。

令和5年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況の概要

令和5年5月から9月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

令和5年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は 91,467 人でした。これは、調査開始以降で過去最多となった平成30年の95,137 人に迫り、過去2番目に多い搬送人員となりました。令和5年は非常に厳しい暑さが長期間にわたって続き、5月から7月及び9月がそれぞれの月で過去2番目、8月が過去3番目の搬送人員となりました。



	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
5月	調査データなし							2,904	2,788	3,401	2,427	4,448	調査データなし	1,626	2,668	3,655
6月	調査データなし		2,276	6,980	1,837	4,265	4,634	3,032	3,558	3,481	5,269	4,151	6,336	4,945	15,969	7,235
7月	12,747	5,294	17,750	17,963	21,082	23,699	18,407	24,567	18,671	26,702	54,220	16,431	8,388	21,372	27,209	36,549
8月	8,857	6,495	28,448	17,566	18,573	27,632	15,183	23,925	21,383	17,302	30,410	36,755	43,060	17,579	20,252	34,835
9月	1,467	1,182	7,645	3,960	4,209	3,133	1,824	1,424	4,012	2,098	2,811	9,532	7,085	2,355	4,931	9,193
合計	23,071	12,971	56,119	46,469	45,701	58,729	40,048	55,852	50,412	52,984	95,137	71,317	64,869	47,877	71,029	91,467

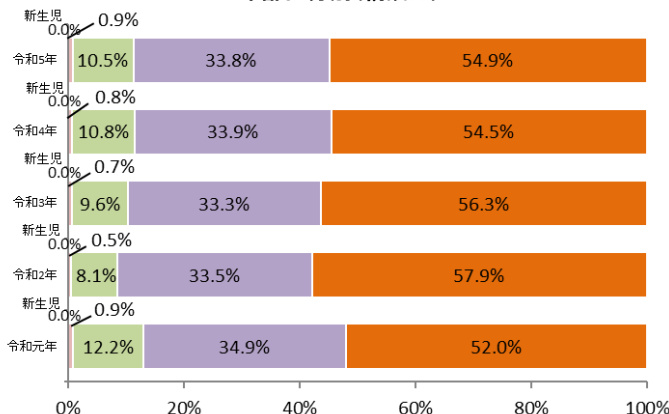
2 内 訳

(1) 年齢区別の救急搬送人員

高齢者（満65歳以上）が最も多く50,173人（54.9%）、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）30,910人（33.8%）、少年（満7歳以上満18歳未満）9,583人（10.5%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）796人（0.9%）の順となっています。

熱中症による救急搬送状況（令和元年～令和5年）

年齢区別（構成比）



	年齢区別(人)					合計
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
令和5年	5	796	9,583	30,910	50,173	91,467
令和4年	2	566	7,636	24,100	38,725	71,029
令和3年	7	359	4,610	15,959	26,942	47,877
令和2年	3	329	5,253	21,756	37,528	64,869
令和元年	1	634	8,707	24,884	37,091	71,317

- 新生児：生後28日未満の者
- 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
- 少年：満7歳以上満18歳未満の者
- 成人：満18歳以上満65歳未満の者
- 高齢者：満65歳以上の者

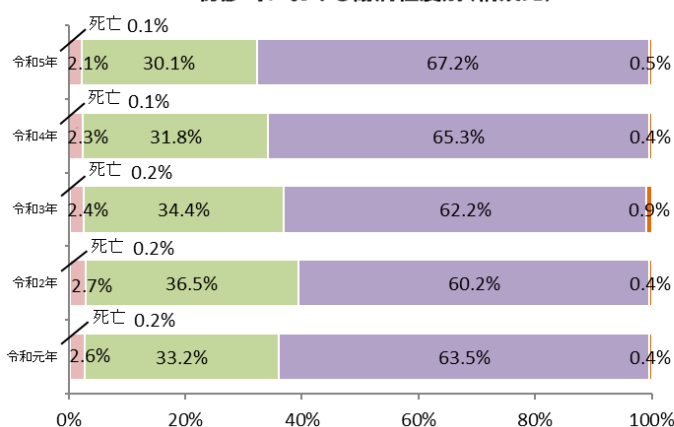
※構成比は各年とも調査期間全体（平成元年及び令和3年、令和4年、令和5年の調査期間は5月～9月、令和2年の調査期間は6月～9月）における数値を計上している。

(2) 医療機関での初診時における傷病程度別の救急搬送人員

軽症（外来診療）が最も多く61,456人（67.2%）、次いで中等症（入院診療）27,545人（30.1%）、重症（長期入院）1,889人（2.1%）、死亡107人（0.1%）の順となっています。

熱中症による救急搬送状況（令和元年～令和5年）

初診時における傷病程度別（構成比）



	初診時における傷病程度別(人)					合計
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	
令和5年	107	1,889	27,545	61,456	470	91,467
令和4年	80	1,633	22,586	46,411	319	71,029
令和3年	80	1,143	16,463	29,758	433	47,877
令和2年	112	1,783	23,662	39,037	275	64,869
令和元年	126	1,889	23,701	45,285	316	71,317

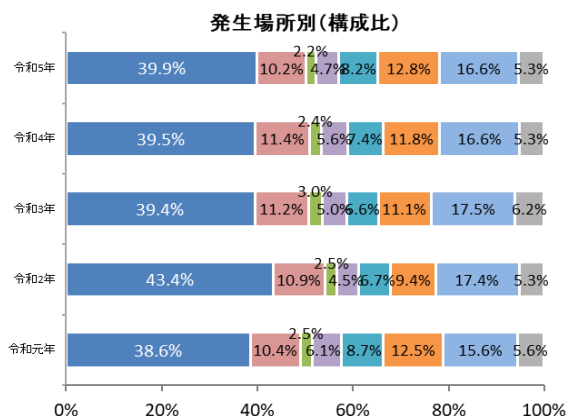
- 死亡 初診時において死亡が確認されたもの
 - 重症 (長期入院) 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 - 中等症 (入院診療) 傷病程度が重症または軽症以外のもの
 - 軽症 (外来診療) 傷病程度が入院加療を必要としないもの
 - その他 医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの
- ※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

※構成比は各年とも調査期間全体（平成元年及び令和3年、令和4年、令和5年の調査期間は5月～9月、令和2年の調査期間は6月～9月）における数値を計上している。

(3) 発生場所別の救急搬送人員

住居が最も多く 36,541 人 (39.9%)、次いで道路 15,186 人 (16.6%)、公衆(屋外) 11,742 人 (12.8%)、仕事場① 9,324 人 (10.2%) の順となっています。

熱中症による救急搬送状況 (令和元年～令和5年)



	発生場所別(人)								合計
	住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆(屋内)	公衆(屋外)	道路	その他	
令和5年	36,541	9,324	2,013	4,310	7,497	11,742	15,186	4,854	91,467
令和4年	28,064	8,127	1,690	3,975	5,248	8,368	11,807	3,750	71,029
令和3年	18,882	5,369	1,421	2,404	3,172	5,298	8,378	2,953	47,877
令和2年	28,121	7,065	1,599	2,901	4,340	6,130	11,276	3,437	64,869
令和元年	27,500	7,403	1,792	4,369	6,213	8,944	11,137	3,959	71,317

■ 住居 (敷地内全ての場所を含む)	■ 公衆(屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
■ 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)	■ 公衆(屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)
■ 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)	■ 道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
■ 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)	■ その他 (上記に該当しない項目)

※構成比は各年とも調査期間全体(令和元年及び令和3年、令和4年、令和5年の調査期間は5月～9月、令和2年の調査期間は6月～9月)における数値を計上している。